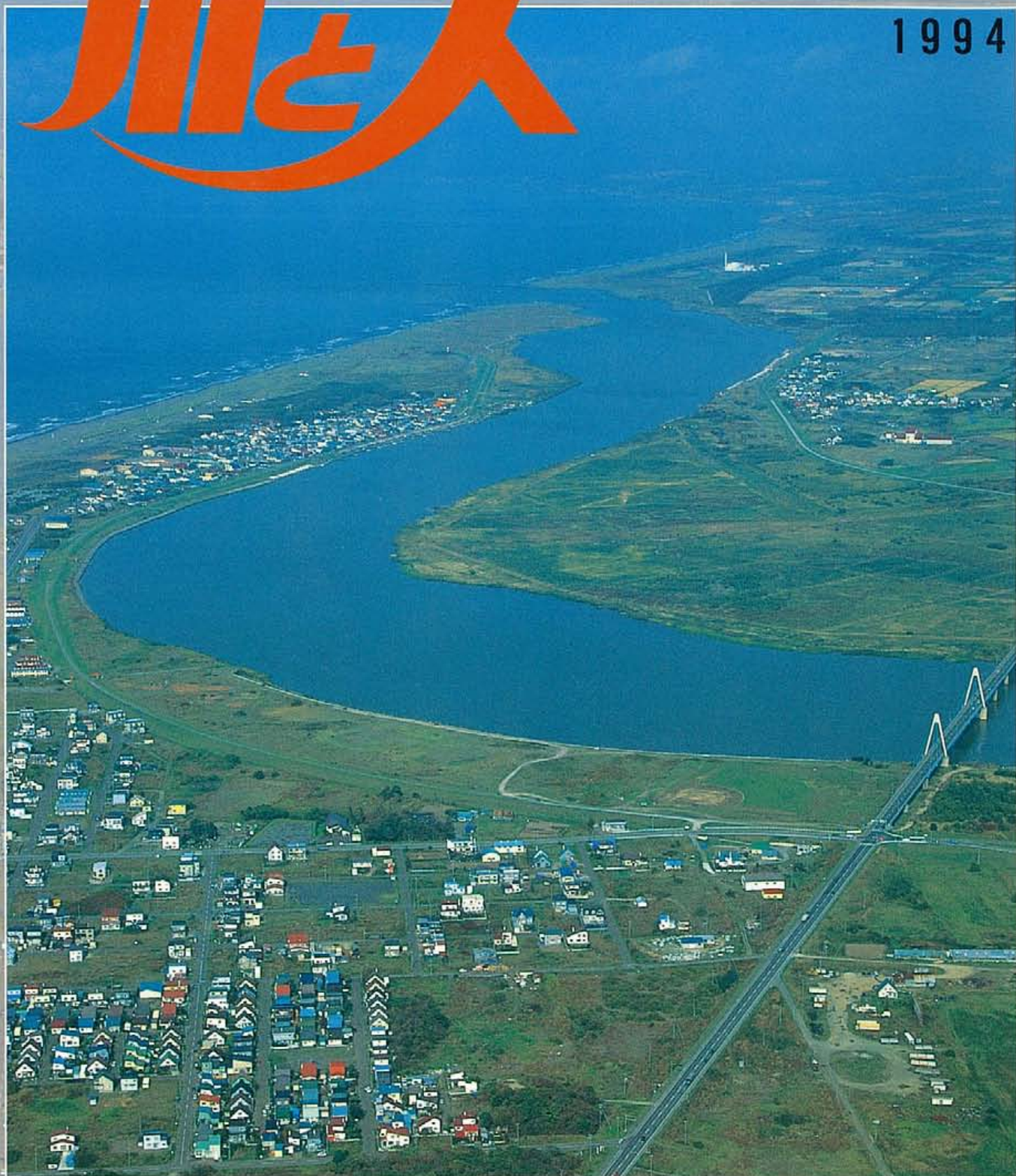




VOL. 4
1994





C O N T E N T S

石狩川名所めぐり

- 月形町 北海道行刑資料館 3
滝川市 滝川リバーサイドパーク 4

History 別所 次郎

歴史の流水・絶えることなく……「大学橋物語」—— 5~8

ミシシッピ川紀行 後編

北海道開発局 船木 淳悟 9・10

流域市町村の紹介

- 鷹栖町 自然の偉大さに魅せられて川とともに歩むまちづくり 11
長沼町 水害の脅威との戦いの中から新たな歴史が始まる 12

河川ピックアップ

- 第3回「北海道サケ会議」開催報告 13
「尻別川に魚道が完成」北海道電力株 14

川を活かした町づくり

茨城県/下館市 水害に強い新しいまちづくり「小貝川激特事業」—— 15・16

人と緑と川づくり

- 北海道の川づくり 真狩川・ふるさとの川づくり 17
札幌市の川づくり 元町小学校流域貯留浸透事業 18

川と人通信/石狩川の仲間たち

珍客編 24年ぶりに現われた「石狩川の神様」チョウザメ 19

石狩川下流

洪水氾濫危険区域図公表 20

石狩川振興財団の活動報告

- 第2回「石狩川サミット」開催 21・22
編集後記 22

めぐり

月形町

『北海道行刑資料館』

明治初期北海道開拓のため
「シベツプト」の地にて開庁された
当時の樺戸集治監事務所が今もなお、
百有余年の歴史を語り継ぐ。

明治14年8月、石狩川右岸の名も知られていない「シベツプト」の地に突如として樺戸集治監が開庁されました。集治監とは現在の刑務所であり、明治維新後の佐賀の乱、西南の役をはじめとする内乱により急激に増えた国事犯や凶悪犯を収容するために開拓の進んでいない北海道に建てられ、囚人外役による道路開きなど道央開拓の拠点となりました。

現在ある北海道行刑資料館は、明治19年に建築されたもので当時の事務所として使用されてきました。大正9年から昭和47年までは月形役場庁舎として使用され、昭和50年から樺戸集治監の資料を中心に刑罰の歴史を知ることができる資料を収集展示しています。

この樺戸集治監と石狩川の関係は深く、道路のないこの地への荷物の搬入は石狩川を往来する舟によるものでした。監獄波止場と呼ばれた船着き場もでき、たくさんの人や荷物が行き来しました。



▼北海道行刑資料館



INFO 見どころ RMATION

■円山公園の杉林

公園内の杉林は、明治23年樺戸集治監開庁10周年の記念樹として囚徒の手により植栽されたもので、現在約600本近くあり学術参考林に指定されています。尚このほか、くぬぎ、アカマツ等も植栽されており、公園は町民のレクリエーションの場となっております。

■月形 潔氏の碑

樺戸集治監初代典獄月形潔氏の功績を永久に記念するため北漸寺の境内に記念碑が建てられており題字は西郷従道、碑文は土方久元、執筆は北漸寺住職鴻春俊帥明治39年秋に建立されました。



▲円山公園の杉林



石狩川名

滝川市

『滝川リバーサイドパーク』

大河の育むリフレッシュ
知的にエキサイティングな都市空間。
ゴルフとグライダー、川をつくる空間は、
大地と大空に様々な楽しみを満喫させる。



北海道の尾根、大雪山連峰を源流とする石狩川は、滝川に至るといかに大河らしい悠然とした風格をつくり出します。

その大河に抱かれて滝川リバーサイドパークがあります。

川に沿って車や自転車で巡ると、川の街「滝川」を十分に満喫することができます。

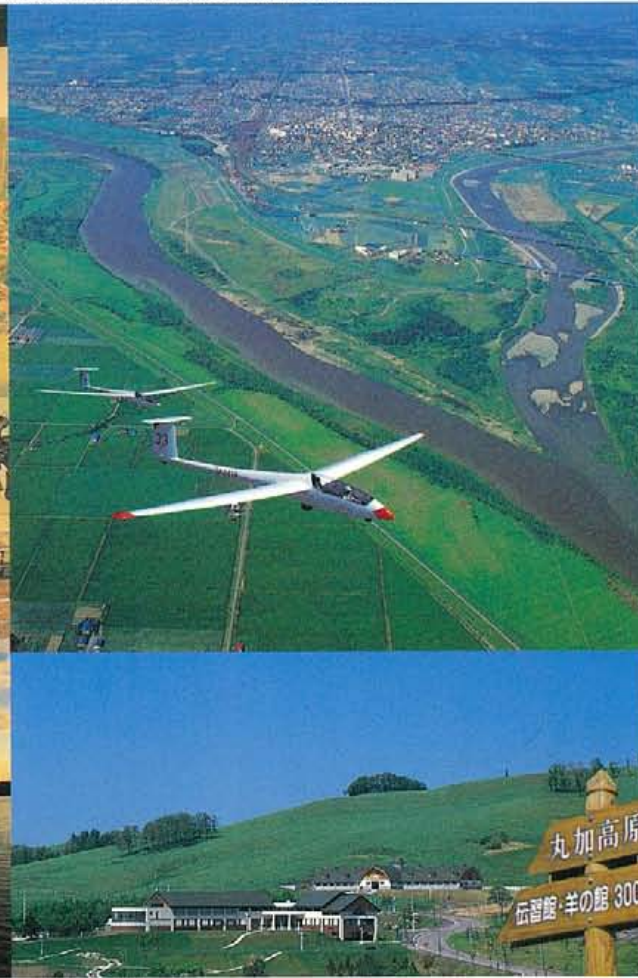
まず、「百年記念塔」。海拔100メートルの高さから見る滝川の街並みと暑寒別岳の山並み。記念塔から散歩道を経て日本一横に長い「百年の滝」を眺めながらチョーザメの泳ぐ「川の科学館」へ。ここで石狩川の千分の一の模型や水の遊具に戯れ、川の知識をシッカリと詰め込むと、市民ゴルフ場へ。石狩川のほとりには、全国一安いと言われる豪華な27ホールのゴルフ場があります。川を横目に、自然と語らう魅惑のコースが広がります。

堤防に沿って進むと、そこは滝川自慢の空への波打ち際「滝川航空公園」。ここでは誰もが翼を持って大空に舞い、空へのロマンを満たしてくれます。現役バリバリの軽飛行機やグライダーに直接触れることのできるスカイミュージアムもご機嫌です。

石狩川から、国木田獨歩や石川啄木が詩歌を詠んだ空知川に出ると、そこは一面の

▼滝川市美術自然史館(ティラノサウルス)

▼石狩川と空知川の分岐点を眼下に飛行するグライダー



▲空知川

▲丸加高原伝習館

INF 見どころ RMATION

■滝川市美術自然史館

昭和55年空知川で発見された「タキカワカイギウ」をはじめティラノサウルスなどの巨大な恐竜の骨格標本がずらり並び自然史部門と日本画の巨匠「岩橋永遠」や「一木万寿三」氏などの絵画が展示されている美術部門の両方を兼ね備えたユニークな施設。

■丸加高原伝習館

滝川市の郊外に広がる丘陵地帯に建ち「景色」・「空気」ともに最高で、付近には森林浴を楽しめる遊歩道や、自由に楽しめる多目的広場など、そこには時間を忘れさせてくれる空間があります。

スモス畑。夏から秋にかけて20種類ものコスモスが咲き誇ります。可憐な花園でのツーショットを撮り終えると、仕上げはすぐそばにある文化ゾーンへ。「美術自然史館」、「こども科学館」、「郷土館」などの博物館群が、歴史や科学や芸術について静かに語りかけてくれるはず。滝川は川のまち。川を巡ると、気の向くままに、様々な楽しみを自由気ままに組み立てることが出来ます。



歴史の流水・絶えることなく… 「大学橋物語」

夕張川水系土地改良区連合前事務局長
長沼土地改良区前参事 長沼町歴史文化研究会会長

別所次郎

大学排水と大学橋

日本海に面するサケとはまなすのまち石狩町、石狩川は石狩湾に注ぐ。この河口から舟で二十八軒廻ると江列市の東で千歳川が合流する。これより三十二軒、長沼町舞鶴地先にいたる。ここに「大学排水」という名の水路と排水棧場が千歳川に接していて、日本海からは六十軒の位置にある。

今から五十年以上も前の昭和十六年七月から八月にかけてのこと、「学生義勇軍」が、千歳川、長都沼（今はない）の洪水氾濫を防ぐため、また太平洋と日本海を運ぶ大運河構想を期して千歳川と長都沼の間に水路を掘った。

一帯は湿原泥炭地で工事を阻み、過酷な労働と食料不足により怪我人や病人が続出したがこの困難をのりこえて二十日後の八月二日に予定の五百米を完成した。

昭和二十三年、道庁直営で残り七百米を掘削して長都沼へ開通したが、付近住民が学生の労苦に感謝し、大学排水と名付け、架かる橋を大学橋と称した。

この地点は千歳川放水路の呑口にあたり太平洋までの距離は約四十軒である。

平成六年二月十三日道新の記事が私たちの目を射た。千歳川放水路建設事業所が、新年度から「事務所」に昇格する報道である。昭和五十六年の大水害から、石狩川治水の抜本的解決策として「千歳川放水路」案が登場してから既に十有余年、未だ着工に至らず。今度こそはと、熱い期待に胸をふくらませる活字の躍動であった。この機会に、昔から続いている、放水路にまつわる、史実を紹介しよう。





学生義勇軍流汗の跡

平成二年十一月二十日、ちょうど放水路の開口予定地点にあたる、長沼町舞鶴大学橋の袂に一基の史跡碑が建てられた。この碑は昭和十六年夏、当時「徴兵猶予」の恩典を受けていた大学生が、それに代わって応えた、勤労奉仕のモニュメントである。

北海道へは千歳川治水工事の一環として、全国大半の大学・高等学校が参加し、当時水害の要因になっていた長都沼の氾濫を除去し、あわせて掘削排水路(後大学排水と命名)が、将来太平洋に繋ぐ水路になるといふ、大きなロマンに情熱をかきたてられて、激しい労働に青春の汗を流した。碑の三面にわたって五十余の校名と約二百七十余名の学生の氏名が刻まれ、正面の碑には全国学生義勇軍排水掘削由緒碑建設期成会による「撰文」が感動を籠めて刻んである。

太平洋戦争勃発の直前、昭和十六年七月十四日午後、千歳線島松駅に下車した井上勝英氏を隊長とする全国学生義勇軍の一行は、舞鶴橋を渡って長沼町に入った。果てしなく広がる低平地、馬追沼、長都沼一帯の湿原沼地には葦が密生し、いったん豪雨に見舞われれば、たちまち浸水泥海と化す。ここに千歳川へ結ぶ一千二百米の水路掘削工事のうち五百米を二十日間で完成させたのであった。

この学生の中には、その後学徒出陣で散華した学生の名も少なくない。その一人南方で戦死した刀禰館正弘中尉は、その遺稿で、この工事を終えて解散するに際し「今別れたなら又何時会えるかわからない、別れたくない、こう言い合って、我々は交々肩を叩き、手を握り、ポロポロ涙を流して別れを惜しんだ」と、痛ましくも書き残して逝った。



学生義勇軍流汗の跡 建設までの経過

学生義勇軍流汗の跡 撰文

治水事業は国土を安定し、国民の生活を守る永久不変の大業なり現在計画中の千歳川放水路は石狩川治水の要にして流域住民の悲願として進められつつあり。この機にあたりその魁となった五十年前の歴史を想起し、もって事業実現の炬火とせむ。昭和十六年七月時局益々苛烈に向かう。

このとき全国の大学高校専門学校等五十、総数二十七余名の学生有志は「学生義勇軍」の旗のもとに参加し遠く北海道石狩の原野に至り、当時千歳川並びに長都沼の氾濫がもたらす水害を除去し、併せて石狩勇私の間は大連河をひらく、雄渾な構想を掲げ、長都沼と千歳川間に一条の排水を掘削せり。しかしながら湿原泥土は工事を阻み、病氣、怪我人続出し、労働過酷を極む食料も不足らず、袍衣裂く。その困難名状すべからず。スコップを振るい、トロツコを押すこと二十日、ついに予定の五百メートルを完成して、八月二日沈む夕日に、感涙、ともに手とつて多感青春の凱歌を捧げり。のち村民この功を讃えて大学排水と命名せり。爾米里霜半世紀ここに新大学橋の竣工にあたり、その由緒を記し名を刻みて未来に響う一里塚とせむ。

平成二年十一月吉日

全国学生義勇軍排水掘削由緒碑建設期成会



1. 昭和十六年七月全国学生が荒地開拓の義勇軍の旗のもと、長都子サシ沼の水害除去と、運河構想実現のため、大学、高専、専門、食糧学校、料理研究家とその塾生等50、270余の青年男女が動員された。
1. その20年後の昭和35年に、長沼町の歴史を編纂にさいし、かつて土下厩便の哀史を秘めた、青粘土とヘドロの低地帯に、敢えて挑戦した労苦と、大学と名づけられた地名の由緒をたどり、町史に刻むべく調査したが残念ながら消息を得るに到らなかつた。

1. 昭和49年9月19日NHKテレビが「まほろしの運河」と題して放送した。

1. 昭和52年、長沼町90年史編纂に際し、再び調査したが、印刷直前に、おりから長沼町で開催された「北海道ユネスコ大会」に米町した帯広畜産大学教授田島重雄氏が、当時北大生として参加されたことを知り、漸く端緒が開かれた。

1. 昭和53年8月21日、前田竹虎エボック社長が名簿を持って米町された。
1. 昭和54年伊藤町史編集員は上京し、引率責任者井上勝英氏に会うことが出来た。

1. 昭和55年7月27日東京で、40年目の再会の夕べが開かれ長沼からも参加し、現地へご招待、お誘いを申しあげた。
1. かくて同年8月22日、現地でも、40年目の再会が実現し、約40名が参加した。そのおり、他日必ず記念碑をお建てする旨をお約束した。

1. 昨年来、札幌土木現業所において大学橋架替と橋袂に公園造成されるのを機会に、合わせて該計画を進めることになり出口喜代治南長沼土地改良区理事長を中心に「お世話する会」関係3カ部落民を以つて期成会を結成し、千歳市、並びに長沼町外、農業団体、企業有志の暖かい御賛同、御協力、さらに学生有志からの御芳志を賜り、石造を株式会社帝北石材に基礎を株式会社村上組に発注し、冬季かつ短期間にかかわらず、鋭意工事を進め、ここに半世紀を経て実現を見たものである。

願わくば永く史跡として、この地を鎮め、大いなる未来を照らし給わんことを祈念するともに、すでに物故され、あるいは学徒兵として出陣した未環の御霊に捧げる。

平成2年11月20日

謹報告 伊藤 兼平

(北海道史研究協議会副会長)



南北戦争記念公園
戦士慰霊塔

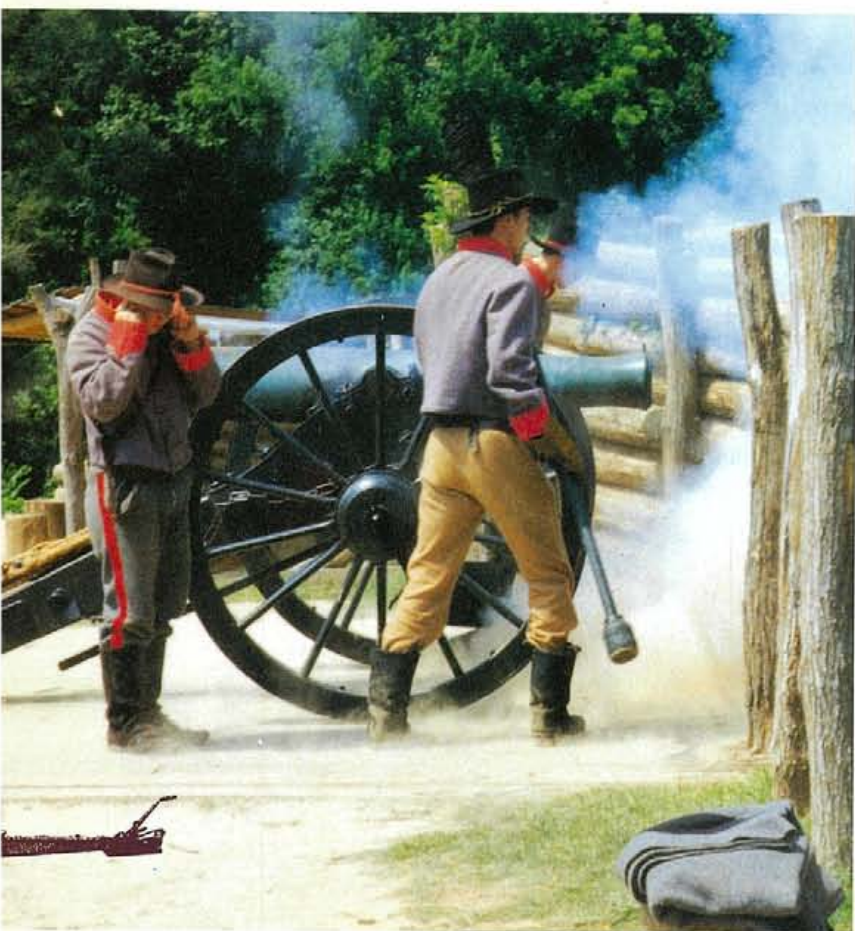
ミシシッピ川紀行(後編)

メキシコ湾まではまだ200km以上あるが、これより下流には大きな街も、横断する橋もない…。全3回にて掲載したミシシッピ川紀行も、いよいよ終着点。

その長く広い流れは、自然と共に生きる難しき、大切さをこれからも教えてくれるのでしよう。

北海道開発局 船木 淳悟

砲撃のデモンストレーション



南北戦争の激戦地 ビクスバーグ

ミシシッピ州ビクスバーグは、河口よりおよそ700km上流に位置する人口3万人ほどの小さな地方都市である。もうこのあたりでは上流部で見られたような函状の河道地形は存在せず、場所により幅数10kmにも及ぶ広大な氾濫原を著しく蛇行しながら流れている。当然洪水氾濫や河道変化も頻繁に発生するからさまざまな洪水対策施設がある。基本的なものはもちろん堤防であるが、この堤防間の距離がすごい。常時の流路部分の幅はせいぜい1kmもあるだろうか。しかしこの流路部の両側にはどこまでも湿地帯が続き、10kmも走ったかと思える頃ようやく橋が終わる。また実際に見ることはできなかったが、捷水路、放水路、ポンプ施設といった治水施設の整備が鋭意行われている。

この街には陸軍工兵隊の水力実験場がある。洪水対策、水路対策、推理構築物などに関する研究をおこなっており、室内外に大規模な模型実験設備を持っている。また水関係以外にも軍事的研究をたくさん実施してお

▼ビクスバーグの高台から見るミシシッピ
(本川はデルタのはるかかなた)



り、例えば一瞬にして長さ数1000mにわたって斬撃を掃る技術や爆弾攻撃にも耐えられるシェルターの開発などを、一般見学者に対しPRビデオで見せている。ただしこれら軍事色の強い実験や施設は、残念ながらツアーコースには入っていない。

ビクスバーグは、トラクタなどとともに南北戦争の三大激戦地に数えられている。ここには戦死者の墓地、慰霊塔、あるいは遺品などを展示保存する、アメリカで唯一の国立公園がある。みどころは北軍が南軍の砦ビクスバーグを攻略するのに使ったガシポットと呼ばれる戦艦で、全長30m以上はあるうかという巨大な木造りの船体に、大砲が左右に4門づつと正面に3門備えられていて、これでミシシッピ川からビクスバーグを砲撃したという。展示されているものは後継工事の際に偶然引き上げられたもので、現存する唯一の船である。また北軍が川をショートカットして南軍の水上輸送路を断ち、殲滅攻めにしたことなど、あまり知られていない南北戦争の姿を知ることができる。

ニューオーリンズ

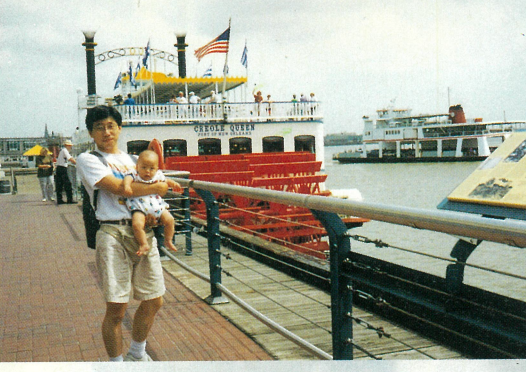
ミシシッピ川の終着点

7月のニューオーリンズはまさにサウナ風呂の中である。冷房の良く効いたホテルから一歩外へ出るとメガネはたちまち曇ってしまった。ミシシッピ川周辺部に限らず、この一帯はどこも亜熱帯のデルタである。高層ビルや道路や橋を一体どうやって作ったのか不思議なくらいだ。大河の河口付近という対岸がかすんで見えない黄河やアマゾンにイメージしてしまうのだがここは意外なほど狭い。1kmそこそこに見える。水位変動もほとんどないだろう。観光汽船の棧橋の高さは水面とそれほど変わらない。

観光都市だけあって、選り取り見取りのツアーが用意されている。沼地探検ツアーというのに参加してみた。デルタ地帯の沼を50人乗りの平底ボートで巡る2時間余りのツアーである。まさにジャングルといった雰囲気の中、ツアーのガイド兼運転手が突然奇声を発した。何かを呼んでいるらしい。30人ほどのお客さんが静まり返った周囲の水面を注視していると、やがて一匹のワニが悠然と姿

ニューオーリンズの中心街にかかる唯一の橋

▲遊覧船乗場やマーケット、水族館などがあるリバーウォーク



▲リバーウォーク
ニューオーリンズのウォータフロント



▲アラハツチの会った少年



▲カヌーボート



▶沼地ツアー

を現した。餌付けはしていないとのことだが、ワニのほうもすっかり心得たもので、ボートの回りをぐるぐる泳いでツアー客を一通り喜ばせた後、見えなくなつた。

メキシコ湾まではまだ200km以上あるが、これより下流には大きな街はなく、川を横断する橋はない。アラハツチという村に對岸の村とを結ぶ小さなカーフェリーが就航していて、実質的にここがミシシッピ川を渡れる最下流ということになる。棧橋には3台の車がフェリーの到着を待っていたが、家族連れと思われる一台から10才くらいの男子がおりてきて話しかけてきた。日本人だとすぐ分かつたようで、いろいろな懐っこく聞いてくる。将来日本に行ってみたいのだそうだ。

ニューオーリンズは車の渋滞が恐ろしいほどひどい。川の両岸に合せて100万人近い人口を抱えているのに、中心部を結ぶ橋がたった一本しかないのだ。熱気溢れる本場のジャズや、フレンチ・クウォーターに代表されるフランス色の濃い独特の街並み、とびきり旨い南部料理など、観光目的ならば何度でも行ってみたい魅力溢れる所であるが、住んでみたい街とはいえない。



▶ジャズの街ニューオーリンズ



ほんとうにミシシッピ川は長くて広い。自分の車で実際に走れたのはイタヌカ湖からセントルイスの手前、ハンニバルという街までで、本川の半分にも満たない。下流部については飛行機と列車を乗り継いでの旅となり、ゆったりと細かく見て歩くことができなかったのはなんとも残念である。テネシー川流域などぜひ見たいところは他にもたくさんある。いつかこの続編を書く機会に恵まれることを願う。

鷹・栖・町

自然の偉大さに魅せられて 川とともに歩むまちづくり。

鷹栖町は水稲中心の農村で、水と川に時として苦しめられましたが、豊かな穀倉地帯を創ってくれたのも、この水と川であったのです。

鷹栖町は、2世紀の歴史をスタートしました。遠く明治18年、司法大輔岩村通俊が永山武四郎らと未開の上川原野を国見し、やがて上川開発の鉄が下ろされました。国見を行った岩村は、自ら碑文を草し、翌19年に近文山頂に「国見の碑」が建てられました。当時の重要な交通は石狩川であり、碑は丸木舟で近文山のふもとまで運ばれ、そこから山頂まで担ぎ上げられたと云われています。

鷹栖町では昭和56年に町最後の長大橋・北野橋の架け換えに際し、「夕やけこやけ」のメロディーを奏でる鉄筋板が取り付けられ「メロディー橋」として話題になりました。昭和57年に鷹栖町が、母なるオサラッペ川に親しむ構想」に着手し、平成2年に「たかすりパーサイド計画」水辺と緑の親水ステージ

▼メロディー橋



▼オサラッペ水上フェスティバル



▼たかすりパーサイド計画 水辺と緑の親水ステージ 桜づつみモデル事業



が、この鷹栖町の真中を北から南に貫流するオサラッペ川は、町の緑地体系を考える上で重要なオープンスペースであり、住民に親しまれる水辺環境として整備していきます。そして、石狩川と合流する嵐山のふもと

「北野軽スポーツ公園」、「メロディーパーク」の整備にあわせて、建設省の「桜づつみモデル事業」の認定を受け、潤いある水辺づくりに取り組むことになりました。この事業は、当面、北野軽スポーツ公園からメロディー橋の間680メートルです



を経て神居古潭へつながるサイクリングロードとしても活用されるでしょう。河川敷地の活用は、単なる安全で快適な水辺空間の創出だけではありません。それは、安全できれいな水の流れが静かに蛇行し、動植物が生息できる潤いのある環境づくりの一環でもあるのです。鷹栖町は今、「福祉と健康」の町をめざし、小さな町ながら、グローバルに考えローカルに実践する「町づくり」を進めています。それは、ゴミの問題であり、緑の問題であり、水を汚さないことなど、地球環境を少しでも守ろうという意識と行動です。「ふるさと」の川「オサラッペ川」とともに

長・沼・町

水害の脅威との戦いの中から
新たな歴史が始まる。

長沼町は、宿命的な水害の脅威との戦いの中から、今日道内有数の米どころとしての地位を築いてきました。さらに、近年の水田農業をめぐる環境の変化や札幌都市圏域の膨張という状況の中にあつて、従来の「稲作中心の純農村」というあり方から、個性的で多様性のある農業を基盤とする「都市近郊田園

活の中にとり戻し、人々が気軽に親しめる場所を新たにづくり出していく必要があります。本町内には、河川(夕張川、旧夕張川、千歳川)、馬追運河、中小河川、農業用排水路、溜池等豊富な水辺資源があり、整備にあつては、これらの水辺空間の形態や規模に



都市」として歩み始めています。しかし、こうした町の基礎を築いていく過程において、安全な生活と生産の安定を優先するあまり、緑や水辺といった経済的尺度では測れないものが失われていった側面が少なからずあります。このため、農業を基盤とする本町も、人間の自然な要求として精神的な安定を求める機運の高まりの中で、心の豊かさや人とのふれあいを基調に、活力と豊かさといったわりと生きがいのある、香り高い文化にみちあふれた社会を目指しているところがあります。このため緑と光のニュータウン構想を策定し、「緑豊かな田園文化都市長沼」の建設のため緑と水と光に着目した町づくりを推進しております。

かつて生活・生産の基盤を築くことと引換えに、多くの身近な水辺が失われ、現在ある水面も治水・利水の機能を重視するあまり、人が近づきがたく、よそよそしいものになっております。この失われた水辺を日常生

▼ウォーターパーク



▼ながめ温泉全景



▼水郷公園



「水」を主体とした具体的計画

- ながめまコミュニティ公園の整備
ながめ温泉を核としてオートキャンプ場、物産館、ウォーターパーク、野外ステージ、テニスコート、温泉等一体となった施設整備
- 北長沼水郷公園の整備
洪水時の調整池としての機能を持ち合わせ、芝生広場、駐車場、センターハウス、パーク

応じて、周辺の環境との調和に配慮し、様々な形で親水の場の形成をはかり、又これらは既設レクリエーション施設、幹線防風林のレクリエーション利用と相互連携した水と緑のレクリエーションネットワークを構成していくものであります。

●せせらぎ公園(仮称)の整備

ゴルフ場、エントランス広場等の整備。町の中心部を走る街路沿いの農業用水を利用し遊水路の造成、花壇、休憩所、ベンチ、散策路、イベント広場、駐車場等を整備し街路全体の公園化。



『サケと親しむ川づくり』を目指して
国際色豊かに
第3回『北海道サケ会議』開催



●メインテーマ
「サケと親しむ川づくり」
北海道サケ友の会
事務局
005 札幌市南区真駒内公園
札幌市豊平川さけ科学館内
TEL & FAX 584-6666番

河川 トピックス

第3回北海道サケ会議開催報告

今回で三回目となる「北海道サケ会議」が、10月16日、北海道開発局、道、カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州のサケ関係者など約40人を招き、北海道学園大学の国際会議場で北海道サケ友の会により、開催されました。

サケ会議は、「サケと親しむ川づくり」をテーマに、日常、河川やサケの問題に取り組んでいる人が現状や悩み、アイデアを率直に語り合い、課題の解決にどのようにアプローチしていくかについての意見交換を目的とされています。

今回は「川をつくる」「サケと親しむ」という二部で構成、道内の川づくりやサケ活動などが紹介されました。また、カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州小・中学校サケ学習交流団などが加わり、会議の中味も国際色の濃いものとなりました。

会議に先立ち北海道サケ友の会の気境会長のおあいさつの後、カナダ・BC州政府の「子供たちのサケを通じた交流事業」は、国境を越えて存在する環境問題に気付くことになる」という、環境教育の重要性を強調したメッセージが紹介されました。

第一部 川をつくる
実際に行われている川づくりの現状が報告されました。
●開発局石狩川開発建設部 橋本部長
「緑と水辺からの地域づくり」
●道土木部河川課 須藤課長補佐
「最近の川づくり」
●札幌市豊平川さけ科学館 長内館長
「サケが遡る豊平川」
●岩見沢市企画財政部ふるさとづくり推進室 杉本室長
「市民と一体となつてふるさとの川づくり」
●カナダBC州漁業・太平洋省/ロバートソン・クリーク文化場 エイセル専門官
「BC州におけるサケ増殖プログラムと河川浄化活動」
この中で須藤補佐は、真駒内川などの河川改修をスライドで解説し、「陸域と水域が自由に交換できる川づくりが望ましいが、土地の制約などの関係で河道内に納めよう改修している。広い空間を川にもたせることは、水辺に鳥も飛び交い、安全性の上からも望ましい」と話しました。また、長内館長は、170万都市・札幌を流れる豊平川でサケの自然産卵が営まれていることを説明、「このような恵に浴することのできる環境は、次の世代の人々の預かりものとしてだけでなく、すべての川の生き物、水を求めるあらゆる生き物のために、より良い自然環境を修復していくことがわたしたちに求められる豊平川への姿勢である」と話しました。



▲会議後の懇親パーティー

第二部 サケと親しむ
サケ学習や道内サケの会の活動の様子が報告されました。
●BC州ポートルバル二小、サケ学習 担当 デイブ・チヤー先生
「カナダの小中学生のサケ学習、河川浄化活動の実情」
●道内サケの会活動報告
千歳川サケの会、小樽運河にサケを呼ぶ会、朝里川ふるりの川づくりの会、釧路シャケの会、大雪と石狩川の自然を守る会等5団体
●道内サケ学習校活動報告
〔札幌市外〕南幌町公民館、厚田村立真足小学校、増毛町立含熊小学校等
〔札幌市内〕真駒内曙小学校、和光小学校、厚別通小学校
それぞれの貴重な体験や楽しい学習活動についてビデオスライドを駆使して、終日和やかな雰囲気の中、発表と質疑が行われました。

尻別川の蘭越発電所取水堰にて、かねてより工事中の魚道が、北海道電力株の手により、この度完成しました。



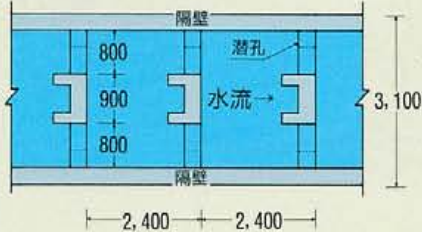
型式	階段式漁道(構造:アイスハーバー型)
寸法	有効幅:2.5m 延長:75m 勾配:1/8・1/30

尻別川に魚道が完成

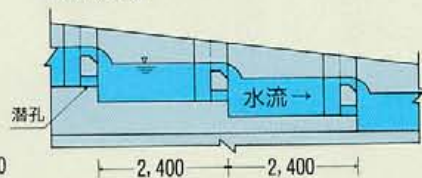


魚道詳細図

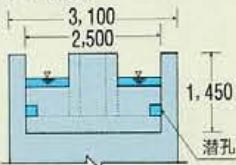
■平面図



■縦断面図



■正面図



尻別川は羊蹄山の麓を流れ、日本海に注ぐ延長126kmの河川です。大正時代から電源開発が進められ、現在は北海道電力株の4発電所のほか自家用発電所2発電所があり、戦後の電力確保と地域の発展に寄与してきました。蘭越発電所取水堰は、尻別川にある発電所取水堰のなかでは最下流にあり、高さが8mと最も高いことから、魚道設置の要望の強い所でした。また、近年は、全国的に河川における親水性、レクリエーション指向、さらには自然環境保全への高まりの中で魚道設置の要望が強まっていました。このような情勢を踏まえ、北海道電力株では数年前より尻別川の生態調査を行ってきましたが、蘭越発電所取水堰に魚道を設置することによる遡上効果が大きいと思われることから、今回の工事となったものです。

尻別川で確認された主な回遊性の魚は、サケ、サクラマス、アユ等です。

魚道からの放流は、融雪期や降雨出水期における余剰水を利用することとし、河川水の有効活用を図っています。

川を活かした町づくり

小貝川を襲った自然の猛威。

昭和61年迄は、小貝川で最も大きかった洪水は昭和13年の洪水でした。昭和13年の洪水は、3日間で約3000mmの雨が降りましたが、昭和61年8月の洪水は、ほぼ一日で同じ量の雨が降りました。そのため、小貝川の水位は堤防を作る時の基準である計画高水位を、ほぼ全川にわたって超え、これまでで一番大きな出水（概ね150年に一回程度の大洪水）となり、各地で大きな被害が発生しました。

水害に強い新しいまちづくり 小貝川激特事業

昭和61年8月、1日で3000mm余りの雨量を記録した台風10号は、小貝川沿いで氾濫面積約4、300ha、浸水家屋4、479戸など、昭和13年の被害を上回る、概ね150年に一度という大洪水になりました。大きな被害を乗り越えて、現在流域地域は水害に強いまちを目指し、未来へ力強く歩み出しました。

災害を未然に防ぐために

昭和61年8月、台風10号による洪水の浸水は小貝川沿川で約4、300ha、浸水家屋4、479戸と大きな被害となりました。浸水による被害は、下館市・明野町より上流のほぼ全区間と、右下町の破堤による浸水に大きくブロック分けされます。なかでも下館市は、市の面積の4分の1が水に浸りました。特に小貝川と五行川、小貝川と大谷川とが合流する地域の被害がひどく、全体で床上浸水1、373戸、床下浸水884戸にも達しました。このような被害が再び起こらないようにするための特別な事業として、直轄河川激甚災害対策特別緊急事業（通称「激特事業」）が行われることになりました。事業の期間は昭和61年度から平成2年度までの5ヶ年間で総事業費は約208億円です。



建設省関東地方建設局
下館工事事務所

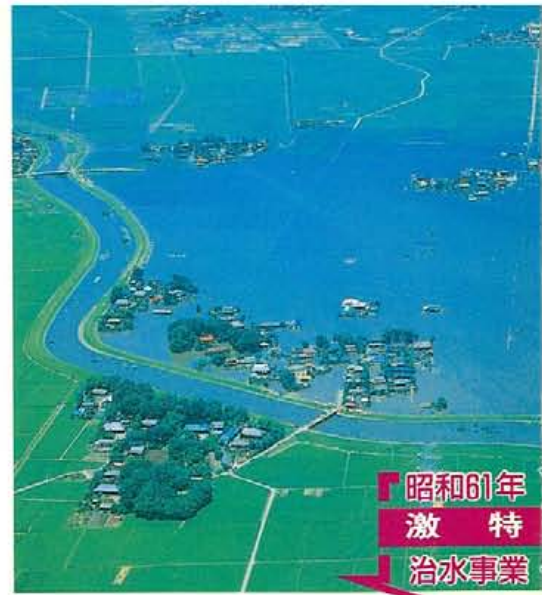
激特事業目的

2 小貝川と大谷川の合流する地区に洪水を一時的に溜め込むための遊水地を設置し、小貝川の安全性を高めます。

施工前

常時 治水整備概念

洪水時



昭和61年
激特
治水事業

五集落の 移転

五集落・109戸（一丁田・24戸 飯田・17戸 椿宮・16戸 母子島・32戸 小釜・20戸）は、国道294号線バイパスが大谷川を渡る位置に造成した高台に集団移転してもらいます。



小貝川

1 小貝川と大谷川の合流点で頻りに浸水の被害にあっている五集落・109戸が二度と水害にあわないように新たに高く盛土した移転地に移転します。

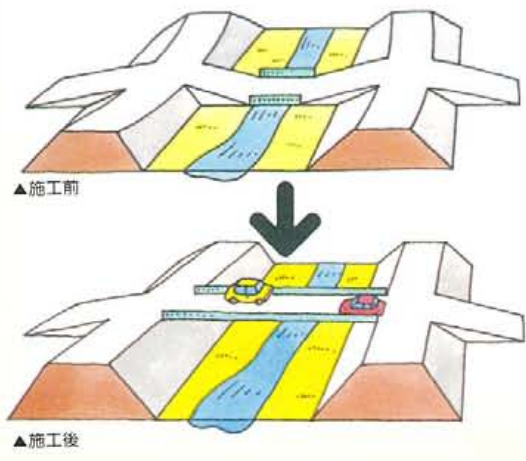
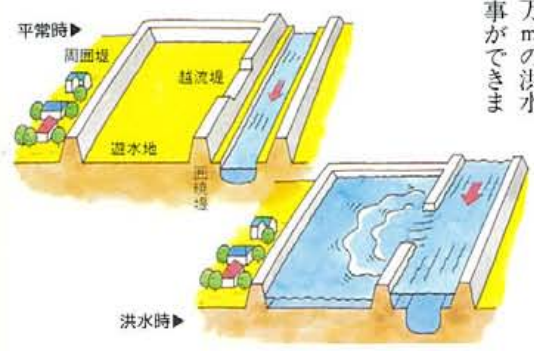


▲施工後

3 洪水の流れを妨げ、破堤の原因となった小貝橋の改築を行い、洪水の流れに支障のないようにします。

母子島遊水地

遊水地のはたらきは、洪水によって小貝川が増水したとき越流堤より増水した水を遊水地に導き入れて溜め込み、洪水の危険が去った時点で小貝川に戻してやることにより、下流への水量を減じて小貝川全体の安全性を高めます。母子島遊水地（面積160ha）では、500万㎡の洪水を溜め込む事ができます。



▲施工前

▲施工後

小貝八橋の架替え

昭和61年当時、小貝橋は、河川の中に入り、高さも低く、このため堤防の高さも不足していました。この橋の改築工事は、昭和62年から着工し、平成元年10月に完成し、平成2年度に旧橋を撤去し完了となります。新しい橋は、「小貝大橋」と命名されました。

人と緑と川づくり

北海道の川づくり



真狩川

ふるさとの川づくり

■北海道のふるさとの川づくり事業

北海道では平成元年度に単独事業の施策として、ふるさとの川づくり事業を創設しました。補助の「ふるさとの川モデル事業（平成6年度に「ふるさとの川整備事業」に変更）を補完する事業で、近年の河川環境に対する要望に応えるものです。

地域の公園計画やまちづくりと調整を図りながら事業を進めてきており、これまで、増毛町の暑寒別川など6河川で実施しています。その一つとして、ここに真狩川での事例を紹介します。

■羊蹄山の麓を流れる

真狩川

真狩川は、蝦夷富士とも呼ばれる秀峰、羊蹄山の南麓を西に流れ、途中、真狩村の市街地を経て、ニセコ町の農村地帯を通過し、尻別川に注ぐ中小河川です。豊富な湧水に恵まれ、ニジマスなどの養殖やヤマメのふ化、放流も盛んです。この流域に広がる丘陵地は、ジャガイモ、アスパラガスなどの産地として知られ、その農村風景は羊蹄山とともに、優れた景観を生み出しています。

整備の諸元等

1) 河川の概要

- 河川名 / 尻別川水系真狩川(一級河川)
- 流域面積 / 167.5km²
- 延長 / 27.4km

2) 改修事業

- 事業名 / 真狩川道単改修工事(ふるさとの川づくり事業)
- 整備年次 / 平成3年度～平成6年度(完成予定)
- 主な整備 / 低水路(親水性に配慮した自然石による)緑化・植栽工

3) 他事業

- 河川公園整備事業(真狩村)平成3年度～平成7年度予定 / 園路整備・植栽・あずまや等



着工前



完成



回復しつつある水際のクレソン

■本年、

開基1000年を迎える真狩村

この川が真狩村の中を流れるあたりは、川幅が広く余裕もあることから、護岸などの改修工事を実施したことがなく、ほとんど自然のままになっています。しかし、雑草が繁茂して水辺に近寄ることができず、ゴミなども捨てられて川は荒廃していました。このような川をより親しみやすい川に生き返らせようとする気運が、清掃活動を通して地域の人々の間で高まってきました。

村の開基1000年を迎えるにあたり、河川に隣接する公園計画が具体化したこともあり、平成4年、道ではこの区間を「ふるさとの川づくり事業」の整備区間に指定し、その支援を図ることにしました。

■「緑の大地とつるおい郷」を

真狩川に

現在、村では、緑の大地とつるおい郷の実現を目指して街づくりに取り組んでおり、この川づくりにも地域の人の大きな期待が寄せられています。

川づくりでは、できるだけ自生するシラカバなどの樹木を生かしながら、子供や高齢者など誰でもが、その清流にふれることができるように、川岸を緩くしたり、遊歩道を設置しています。水際は木杭や石を用いて線形に変化をもたせ、多彩な流れを間近に見られるようにしています。植栽などの緑化には村の協力も得て、整備区間約1kmがもうじき完成というところまで進んでいます。

実際には、すでにクレソンなどが自生し始めました。自然が回復しつつあるこの川のまわりには、早朝、散歩をする人、川の中の飛び石で遊び子供たち、川岸の釣り人など、多くの人々が集う風景を見ることができそうです。



元町小学校流域貯留浸透事業

水害に強い 安全なまちづくりを 目指して

■伏籠川流域の総合治水対策

伏籠川は、札幌市の北東部の低平地を流れ茨戸川から石狩川に注ぐ一級河川で、その流域は、札幌市の都心を含み北・東区と石狩町にまたがり161km²を有しております。このうち札幌市域の係る市街化面積は65km²で、全体241km²の約3割にも及んでおります。

札幌市は、高度経済成長を背景に都市化が急速に進み、これに伴う治水安全度の低下に対処するため、伏籠川流域では全国17河川流域の一つとして、昭和54年度から「総合治水対策」を実施してきました。

総合治水対策では、将来を見据えた治水対策として、伏籠川や石狩川放水路をはじめとする主要な河川の改修事業の促進と合わせて、流域内では、拡大市街地での開発時に雨水貯留池を整備したり、下水道の流出抑制を行うことのほか、既成市街地内の学校や公園を利用した流域貯留浸透施設の整備を位置付けております。

■流域貯留浸透事業の実施

流域貯留浸透事業は、公共や民間の施設又はその施設の敷地を貯留又は浸透機能をもつ構造に改築するもので、札幌市では既成市街地内に存する公立の小・中・高等学校と近

整備の諸元等

1) 事業計画

- 事業名/流域貯留浸透事業
- 事業年次/平成5年度

2) 学校施設の概要

- 学校名/元町小学校(東区北25条東17丁目1-1)
- 学校敷地面積/1.6ha

3) 計画降雨

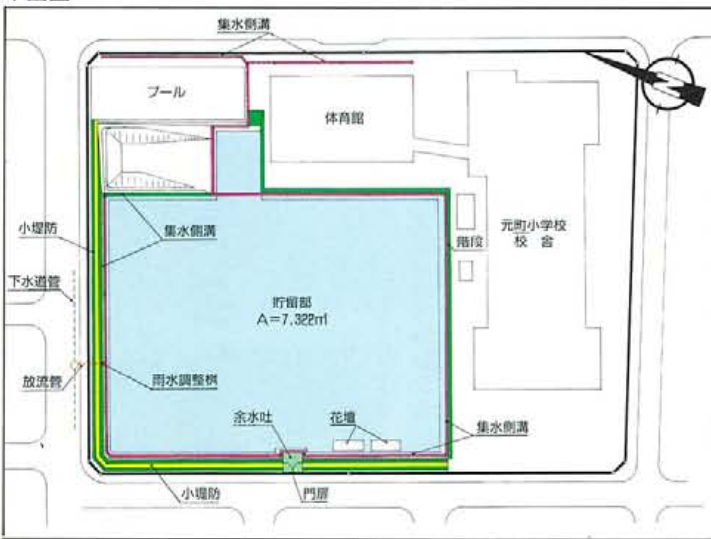
- 年超過確率/10年(時間雨量)
- 時間雨量/37mm(3日雨量/220mm)

4) 貯留施設

- 集水面積/1.1ha
- 貯留箇所/グラウンド内
- 貯留構造/小堤防方式(幅1.5m、高さ0.4~0m)
- 貯留敷地面積/7,300m²
- 計画貯留水深/27cm
- 計画貯留量/902m³
- 施設への最大流入量/0.11m³/s
- 下水道への流出量/0.028m³/s
- 流出抑制量/0.082m³/s

元町小学校整備計画概要図

平面図



断面図



総合治水事業平面図



流域貯留浸透事業は、既存の公共・公益施設を利用することで、新たな用地を取得することなく、河川のほか既成市街地の面的な安全度も確保でき、都市型洪水対策の有効な手法と考えられることから、今後とも施策を積極的に推進していく考えております。

この施設で計画降雨時には、最大で水深27cm、貯留量約900m³の雨水を貯留し、洪水流出量をピークで約0.1m³/s抑制します。

施設計画では、グラウンド施設本来の利用を考慮して、一部築堤とグラウンド面の掘下げの併用で計画貯留量を確保する構造とし、湛水した雨水は、降雨終了後2時間以内に下水道に排水する計画としております。

元町小学校は、河川整備が後年次となる流域にあり、即効的な治水対策として貯留機能を確保するため、グラウンドの再整備計画と調整を図り事業実施しました。

隣公園規模以上の公園11.5箇所全てを対象に、全体で483,000m³(流域対策量の約40%)の貯留量を確保する計画として、まず事業着手しました。

石狩川の仲間たち。

川と人通信①

「珍客編」

北海道の雄大な大地を潤す石狩川。

母なる川は私たち人間はもちろん、様々な生き物たちにとっても大切なライフフィールドです。

このコーナーは、石狩川に棲息する貴重な生物やニュースなどをご紹介します。

第1回目は、キャビアで有名なチョウザメの話題です。

ちょうざめ◆蝶鮫【硬骨魚綱 チョウザメ科】



軟骨魚と硬骨魚の中間の形質をもつ魚で、体はやや円筒状で体長は約1.5m。吻は突出し、下面の4本のひげで泥中の小動物を捕食する。鱗は硬鱗で板状、背部は灰青色で腹部は白く4~5月頃川をのぼって水草などに産卵し、1週間ほどでふ化する。稚魚は秋に海へ下る。卵葉を塩蔵したキャビアは高級食品である。



24年ぶりに現れた「石狩川の神様」

チョウザメ



今ではトリュフ、フォアグラと並ぶ世界3大美味として珍重されるキャビア。キャビアはチョウザメの卵を塩づけにしたもので、道内では上川管内美深町などでチョウザメを養殖していますが、それは交配種の「ベステル」。天然ものは大変貴重なものとされていますが、その天然チョウザメが石狩川に勇姿を現わし話題になりました。

チョウザメは昨年12月11日、石狩管内石狩町の石狩川河口から約2km上流に仕掛けていた、ヤツメウナギ用の漁具(筈)に生きたまま入っていると、捕獲されました。

国内では昭和初期までに石狩川や天塩川に産卵のためを上した記録が残されていますが、石狩川では1969年から確認されていなかったことから、今回の捕獲は24年ぶりの快挙といえます。



「川の科学館」
滝川市西滝川(石狩川沿い)
●お問い合わせ
☎0125-24-0989

当財団が運営・管理の委託を受ける「川の科学館」でも、チョウザメの飼育を行っています。生体水槽と観察水槽にて、合計20匹余りを観察することができます。特に生体水槽には1mほどのチョウザメが元気に泳ぎ回っています。実物をご覧になりたい方は開館日、開館時間を上記問い合わせ先にご確認の上、ご来場下さい。

捕獲されたチョウザメは体長1.4m、体重13kgで、頭が細長いことから、アムール川原産のダウリア・チョウザメで回遊中にこの時期は石狩川の水がきれいなため迷い込んだものと思われま。

グルメならずとも気になるキャビアの有無については、成熟期の体長が2・3mほどのため、産卵の可能性は低いと。いずれにしても24年ぶりの珍魚出現に、改めて石狩川の大きさ、広さが認識された出来事でした。



【公表のねらい】

平成6年度の重点施策として、洪水、津波等の自然災害時における警戒避難の基礎資料として災害時の対応、避難地、避難路の位置等を具体的に示したハザードマップを市町村と協力して作成することとしています。

今回、その基礎資料となる洪水氾濫シミュレーションによる危険区域を示した「洪水氾濫危険区域図」を作成したので公表します。

【対象河川】

今回は、規模、重要度の大きい国(建設省)の管理河川を対象とし、特に人口、資産額等が大きい都市部や重要区間となっている河川の洪水氾濫を対象としています。今後、順次全国の二級河川について公表していきます。

石狩川下流、阿武隈川、利根川上流・江戸川、荒川下流、信濃川、豊川、淀川、高梁川、肱川、筑後川、計10水系11河川

【洪水氾濫危険区域図の見方について】

(1)各河川が河川改修の長期目標としている概ね1000~2000年に1回程度起こる大雨に洪水で、現時点(日5年度)において河川改修が不十分であるために所要の安全度が確保できない地先において、堤防が破堤するとした時、氾濫流により浸水の可能性がある区域を示したものです。

(2)各地点の氾濫流による浸水深は堤防が破堤する場所によって異なりますが、そのうち最も大きい浸水深をもとに0.5m以下、0.5~2.0m、2.0m以上の3ランクで表示しました。

(3)洪水氾濫危険区域内戸数、人口は60年時点のものです。

(4)氾濫シミュレーションにおいては、支派川や高潮による氾濫を考慮していませんが、計算メッシュが概ね500mピッチであるため、微地形による影響が表せないなど、制度面において若干の誤差がありますが、洪水氾濫状況は概ね再現していると考えられます。

洪水氾濫危険区域図により、洪水氾濫による浸水の可能性がある区域と被害状況を知っていただくことにより、

- ①自分の住んでいる地域における洪水氾濫による浸水被害の可能性の有無について認識を深めていただき、
- ②水防への関心を高め、緊急時の水防、避難活動等に活用いただくとともに、
- ③水害に強い生活様式への工夫にも役立てていただきたいと思います。

危機管理体制の
新たな試み

平成5年度

洪水危険区域図を製作

石狩川下流洪水氾濫危険区域図

石狩川下流(河口から神居古潭)では、石狩川本川及び6大主要支川の北海道開発局の管理区間(全直轄管理区間)について、河川改修の長期目標としている150年に1回程度起こる大雨の洪水による危険区域図を公表しています。

これによると、今回の対象区域内では135,000ha、35,000戸被害をうける危険性があります。

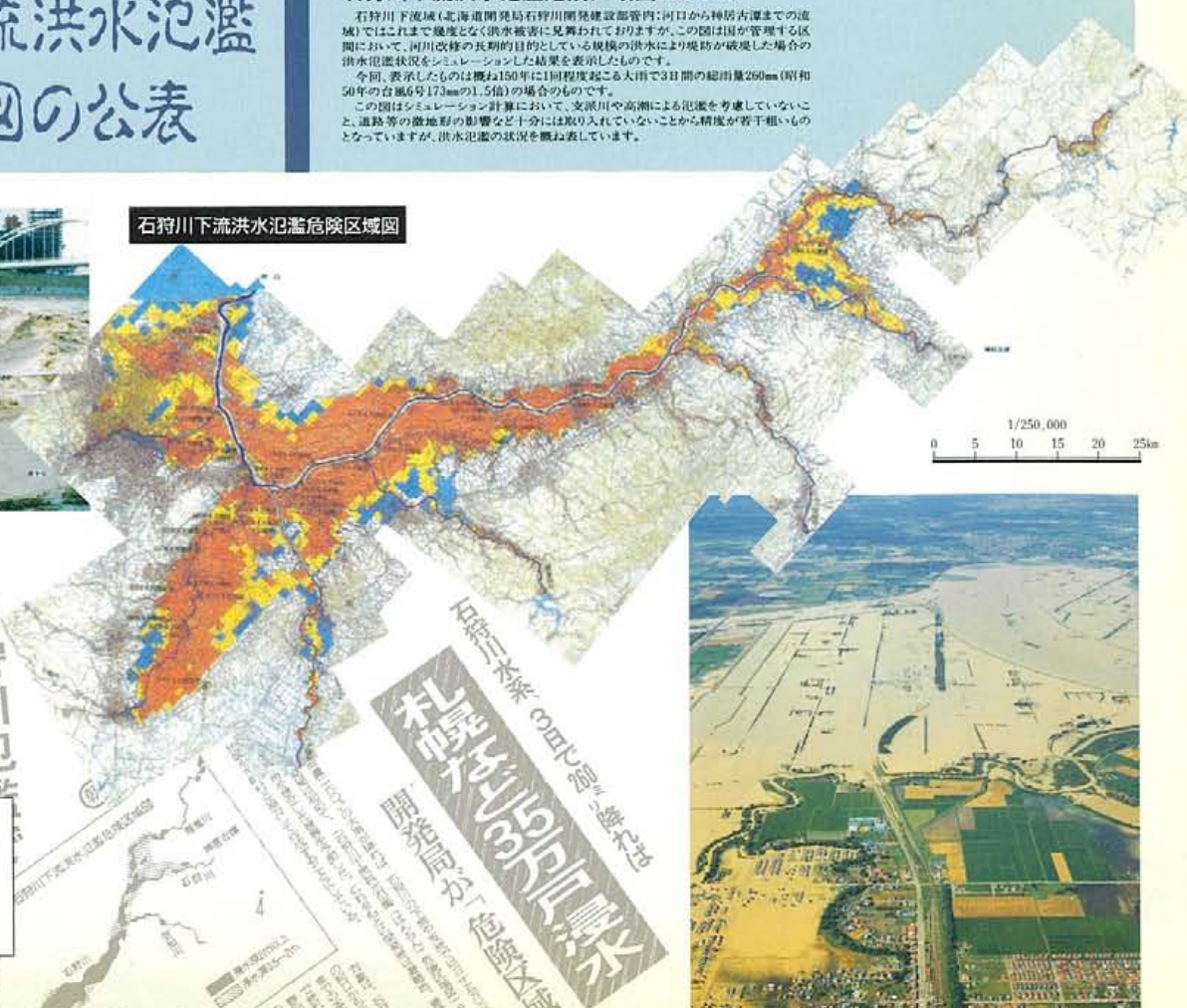
石狩川下流洪水氾濫危険区域図の公表

石狩川下流洪水氾濫危険区域図について

石狩川下流域(北海道開発局石狩開発建設部管内:河口から神居古潭までの流域)ではこれまで幾度となく洪水被害に見舞われており、この図は国が管理する区間において、河川改修の長期的目的としている規模の洪水により堤防が破堤した場合の洪水氾濫状況をシミュレーションした結果を表示したものです。
今回、表示したのは概ね150年に1回程度起こる大雨で3日間の総雨量250mm(昭和50年の台風6号173mmの1.5倍)の場合のものです。
この図はシミュレーション計算において、支派川や高潮による氾濫を考慮していませんが、道路等の微地形の影響など十分には取り入れていないことから精度が若干粗いものとなっておりますが、洪水氾濫の状況を概ね表しています。



石狩川下流洪水氾濫危険区域図



洪水氾濫危険区域 内面積(ha)	135,000
~0.5m	48,000
洪水氾濫 危険区域内 戸数(戸)	353,000
0.5m~2.0m	254,000
2.0m	51,000
合計	353,000
洪水氾濫危険区域 内人口(人)	944,000

- 浸水深が0.5m以下の区域
- 浸水深が0.5m~2.0mの区域
- 浸水深が2.0m以上の区域
- × 過去の破堤箇所
- ~ 対象としている河川区間

第2回 石狩川サミット

■基本テーマ 自然と人間の共生・川からのまちづくり

〈緑とあそび〉

■メインテーマ

「自然と人間の共生」を基本理念に、「緑とあそび」を主題とした、第2回石狩川サミットが平成5年11月5日、砂川市にて開催されました。

会場となった砂川ハイウェイオアシス館2階の砂川市ふるさと活性化プラザには、開発局・道の関係者、母なる石狩川流域の48市町村長、そして一般の方々を含めて約500人が集い、開催地の中川砂川市長の開会あいさつをはじめ、主催提唱者の旭川大学三木学長、そして座長の北海学園大学山口教授のあいさつがそれぞれ行われると、用意された大型ビジョンに各地の親水施設やイベントが映し出されるなど、よりスケールアップされた演出の中、活発な意見が交わられました。

最後に開催地の中川砂川市長が、「緑を守り育て、良好な水辺環境を流域全体に広げて、生活文化の醸成に務め、8月7日を『石狩川の日』と定めて一人一本、280万本植樹」を旨として取り組む」という内容のサミット宣言により、第2回石狩川サミットを締めくくりました。

世界的規模で課題となっている「自然と人間の共生」。人類が生存するためにも、自然や他の生物を保全し保護しながらそれと調和し、共に生きていくことが、今私たちに求められている大きなテーマです。

環境保全の中心は命の源の水、生命を維持する酸素を生み出す緑。水と緑と私達との



開催

参加市町村

- 愛別町 千歳市
 - 赤平市 月形町
 - 旭川市 当別町
 - 芦別市 当麻町
 - 石狩町 奈井江町
 - 岩見沢市 中富良野町
 - 歌志内市 長沼町
 - 浦臼町 南幌町
 - 雨竜町 沼田町
 - 恵庭市 美瑛町
 - 江別市 東神楽町
 - 上川町 東川町
 - 上砂川町 比布町
 - 上富良野町 美瑛市
 - 北村 広島町
 - 栗沢町 深川市
 - 栗山町 富良野市
 - 札幌市 北竜町
 - 新篠津村 幌加内町
 - 新十津川町 三笠市
 - 砂川市 南富良野町
 - 鷹栖町 妹背牛町
 - 滝川市 夕張市
 - 秩父別町 由仁町
- (アイウェオ順)



【第2回石狩川サミット宣言】

石狩川流域48市町村は、石狩川を全体の絆として「自然と人間の共生一川からのまちづくり」に取り組んでいる。

「緑あるところに水あり、水あるところに緑ある豊かなまちは、安全とゆとりの証である」ことを確認し、ここに宣言する。



1. 私達は緑を守り育て、流域の豊かさと住民の安心を創り、地域の交流、世代の交流を通じて次代へ引き継ぐ。
2. 良好な水辺環境を流域全体に拡げ、持続するために最大の努力をする。
3. 流域環境の中に、親しみ楽しみながら、健やかな心身の形成と生活文化の醸成につとめる。
4. 8月7日を「石狩川の日」と定めて、石狩川の大きな恩恵に感謝し、流域住民の連帯を深め、1人1本「280万本植樹」を目指して取り組む。

平成5年11月5日

石狩川流域48市町村長



係わりをもっと身近に考えなければなりません。自然と人間との共生をみつめ、川とのあたらしい関係づくりを地域ぐるみで始める——それが石狩川サミットです。石狩川はミシシッピ川、あるいは黄河に通じ、大雪連峰はロッキー山脈あるいはヒマラヤ山脈に連なる。北海道の大地を潤し続ける母なる川は世界の川でもあります。

石狩川サミットはこの母なる石狩川に関わりを持つ市町村の代表などが一同に会し、「自然と人間の共生」を基本理念に、「川からのまちづくり」を主題として、平成3年11月に第1回目旭川市において開催されました。サミットでは、「水・緑・魚」などに象徴される優れた環境の中にこそ豊かな人間性が育まれること、それをよりよい形として次の世代に残すとともに、水害のないまちづくりを目指すなどを内容とする「石狩川サミット宣言」が採用され、継続開催が決議、第2回開催の運びとなりました。

今後の展開が期待されます。



「石狩川」シンボルマーク決定！

第2回石狩川サミットの開催を記念して、実行委員会では石狩川のシンボルマークを公募、応募総数212点の中から吉田清作さんの作品が最優秀賞に選ばれました。

北海道の地形をグリーンで形取りながら、ブルーとの組み合わせで、母なる川・石狩川の「母」の文字をデザイン、ブルーは石狩川であるとともに、水鳥が羽ばたく姿を表しています。このシンボルマークは「石狩川サミット」をはじめ、石狩川に関係する各種イベントや印刷物に使用します。



編集後記

○歴史が浅いとか歴史がないとか言われる北海道ですが、歴史の重み、価値とは何でしょう。

五十余年前の「学生義勇軍」の行動。日米開戦4ヶ月前の戦雲下の緊迫状況の中で全国の若者の青春の汗が千歳川低平地に散った。栄養隊員食糧学校女生徒の手記（婦人公論 昭和十六年二月号）では若い乙女らが食糧難の中、苦しく給食を担当した様子が生々しく記されて心を打つ。現代史のひとこま。

○今回公表された洪水氾濫危険区域図の特に赤い部分が百年前、五十年前の氾濫・湿地帯と重なるのでしよう。

百年の歳月はおるか五十年前の事実も記録しなければ風化してしまいます。治水に関する居住地の変遷や先人の労苦に無頓着では歴史どころか身の安全も保たれません。

○チヨウザメも歴史的遺物にせず清流へ帰るマスコットフィッシュとして石狩川に呼び戻したい。ミシシッピのワニは健在です。

○サミットで謳われた「二百八十万本植樹」は後世への素晴らしい贈り物です。それぞれに森を描き統一行動をするための合言葉を持続しようではありませんか。

○執筆者で異動された方もあり、この欄を借りてお礼申し上げます。





オジロワシ

タカ目／タカ科

主にユーラシア大陸北部に分布。
日本では国指定天然記念物とされ、大多数が冬鳥だが、繁殖するものはその時期を北海道東部、北部の海岸近い森林、湖沼周辺で過ごし、冬は道内各地の海岸、河川流域、湖沼周辺にすむ。全長80～95cm、翼開長は180～230cm。魚類を主に鳥類、哺乳類などを捕食する。